

余震の影響で病院・地域にさらなる被害も

4/7 余震発生時に現地支援に赴いていた城南保健生協・梶原氏のレポートです。

4/7(木) 午前中は長町地域を訪問。長町クリニックは震災による建物の損壊が激しく立ち入り禁止でした。本館両脇の増築部分の継目が裂けてしまい、屋内も天井が落ちたり壁がはがれたりして危険な状態でした。午後は津波の被害を受けた若林地域を訪問しました。若林クリニックでミーティング後、藤野地区を訪問。住民の方のお話では「津波が来て道には瓦礫が流れてきたが、海側と内陸側を分けるように走る仙台東部道路が防波堤の役割を果たし、藤野地区は大きな被害を受けずに済んだ」とのことでした。しかし水道の復旧は遅く1週間前ようやく復旧したそうです。



長町クリニックの被害状況



その日(4/7) 深夜にマグニチュード 7.4 の地震が発生。塩釜市は震度6弱でした。最初ゆっくり揺れはじめ、すぐにもの凄い揺れが起きました。すぐに停電になり、揺れが収まってから外へ避難。津波警報が発令され放送が流れていました。坂総合病院では緊急対策本部が設置され、トリアージ体制が組み立てられ、救急車も続々とやってきました。深夜2時までは本部待機、その後宿舎へ戻りました。電気は消えたままでした。

4/8(金) 朝のミーティングで、前日の地震で停電が続いていること、本院の外壁に亀裂が入ったこと、診療所が使えないので、休日診療で対応することなどが説明されました。その後、長町訪問に向かいました。支援者12名のうち女性5名は長町地域訪問、男性7名は若林クリニックで、前日の地震で散乱した医材やカルテの片づけを行いました。

午後はすぐ近所の六郷地区を訪問。津波の被害は受けずすんだ地域でしたが、前日の地震で壁がこわれたり、棚やタンスが倒れたり大きな被害が出ていました。

3/11の地震で建物自体が弱っていたようです。坂病院に帰任後、周辺の状況を確認しましたが、六郷地区と同様に壁が落ちたり、ガラスが割れていたり被害が出ていました。本震の際には避難しなかったが、今回は避難したという方もいました。

現地では片付けを始めた矢先に、大きな余震のために建物や家屋内にさらなる被害が出ており、引き続き厳しい状況にあります。今後も様々な支援が必要と考えます。



4/7 深夜 坂病院 緊急トリアージ体制に

＜城南福祉医療協会～絆通信～記事とインタビューにて構成＞